

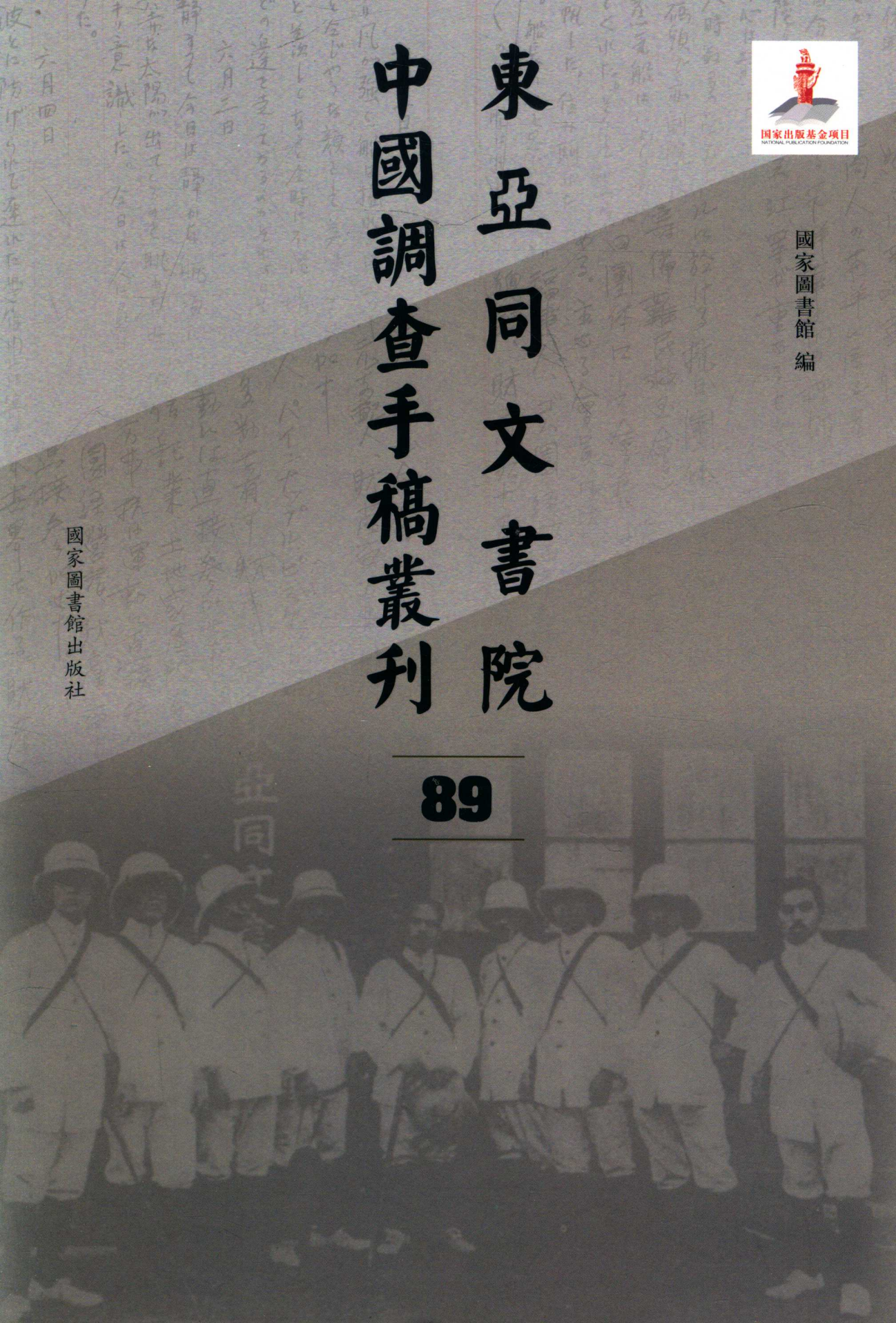


國家圖書館編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

89

國家圖書館出版社





國家圖書館編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

89

國家圖書館出版社

第八九冊目錄

昭和二年（一九二七）調查報告（第二十四期生）

比律賓ニ於ケル華僑ノ事業

菲律賓華僑の事業

比律賓ニ於ケル華僑金融及其ノ機關

菲律賓の華僑金融及其機構

取扱機關ヲ中心トセル所ノ支那移民調査

以移民辦理機構爲中心の中國移民調査

南洋ニ於ケル殖民事業

南洋の殖民事業

岡田信一

第十一卷第四編

……………一

二井内泰彦

第十一卷第五編

……………九七

吉野金良

第十一卷第六編

……………二八三

上原真順

第十二卷第一編

……………三二五

南洋ニ於ケル金融

南洋的金融

久留景三

第十二卷第二編

……

四三九

二

上海東亞
同文書院
圖書印

比律賓ノ華僑調査

比律賓ニ於テノ華僑ノ事業

第一章 緒論

「南方人」の場子に「渡ル」を得「イ」ト「コ」デ或學者ヲ
シテ言ハシメ「程」歴史上ヨリ見テ場子に以南ノ
民ハ未ダ當テ長以テ渡ツテ天下ニ覇ヲ唱ヘタ
「ヘ」カツタ。

1
民國十五年十月、山東ニ兵ヲ送ルハ、國民軍モ
破竹ノ勢ヲ以テ漢口ヲ突キ、上海ヲ奪ヒ、南京ヲ
占領シ、一變ハ此ノ方、山東ノ野ニテリ、威ヲ逞フル

大坂、シテ此京城ヲ突カントシタガ逆ニ事成ラズ
再ビ江南ノ地ニ留ムルハ已ナキニ至ツタ。

シテ中国ノ南東、広東ノ地ヨリ江南ノ都南京
ニテ數百ヨリ、幾十萬ノ大軍ヲシテ見クカラ
テシメタムモノハ何ニアラカ、ソハ一敗セリトハ云ヘ能
ク云ヲシテ關ハシメ、ソカラ維持シソ勢ヲ俾ハサ
シメタモノハ何ニアツタアラカ。

ソハ時ノ利モアラシ、將帥蔣介石ノ奇策モアリ
外テアラシ、又國民軍ノ宣傳ノ大ニ其ハ所モア
ツタデアラシ。

外ガシテニ此大軍ヲ養ヒ得タリノ經濟力ヲ見
逃スヘキ事ナリ、思ハレ広東ノ商民ハ苦シテカレ、

否、南方、民ハ今や塗炭ニ落ち在ル、戦ハ半ニ疲レテ其ハ、
 抵制外貨、課税又課税等々ト實ニ彼等幾百ノ
 蒼生ハ計外的ニ計内的ニ苦シテ其ルヲカ、ソレニモ
 不効、幾十万人ノ国民軍ヲヨクお持、レテ来タノカ、
 此ニ至ツテ実如トシテ遠ク故國ヲ去ツテ海外ニ在
 ル所ノ華僑ノ力ヲ思ハシメル、

此等華僑ノ経済力ハ国民軍ヲレテ今日ノ米
 ヲ贏ラシメタ一大動力ト云フニ敢エテ當ラナイ
 言葉ニハアルマイン、

實ニ華僑ハ世界ノ到處ニ在ツテ他國ノ治下ニ
 居テ、自國軍閥ノ誅伐ヲ受ケルヲテ、其母國ノ
 紛糾ハ平乱ヲ外ニシテ兎ニ角平穩ニ生活シ得ん

モノナル、之ヲ東等ノ國民ニ比シテ彼等ノ總
モノ財産ヲ有シ安住シ居ルノナル、外ガ彼等ハ
又一方他國政府ノ壓迫ニ比シテナルノナル、民衆
一人向トトニテ平等サヲ願ヒ、一國政府ノ強カラ知
ツテ自國ノ強國トナラ願ヒ、世界ノ改革ヲ乞フ
彼等テモアウウ、ソコニ國民軍ヲ起ツタ根據ト似
通フタ希望ガ存在シ、彼等ガ過カナル海ノ彼方
カラ國民政府ノ成立ヲ望ツタ所以ナルト思ヘル、
國民軍ハ確カニ一方之ヲ利用シテ盛シニ宣傳シ、華
僑モ亦競ッテ之ニ賛成シタルナル、

斯クシテ南支ノ勢力下トシタ國民政府ハ現在華
僑等是會ヲ設ケ、華僑ノ散在シテカニ重要地ニハ

華僑國民黨本部ハ心セテ計ケテ升ルベシト

大伴上世界ニ散在シテ升ル華僑ノ總數ハ幾何
カリメカシテモ一寸見當が付カナイガ、南洋ニ升ル華僑ノ
總數ハ約三百萬人ト云ハレテ升ル、殊ニ是等華僑ノ母
國ニ送附スル金額及ビリノ掛リノ歸ル所ノ金額ヲ合
計スルト一億ノ至ハ一億ニ千下布ニ上ルベシト云フ
オ即ガ年々一億ハ外ノ輸入超過ヲ繼續シテ由
金融ノ均ハ即調和ヲ保テ居ルヲ得ル所以デ、彼等
ノ大勢力強ニ經濟的方面ノ勢力ハ驚ラヘテモ、ガアル
ベシト云フ。

3
元來此緯度ハ南洋ノ一部分ニ過ギナイガ、ソ土如クも
膏腴デ自然ノ產物ニ富ミ、砂糖、麻、椰子油、煙草、

木村等、應親八年々増加シ將來有望ナリ也ナル事、
トハ一筆帶水、近キニアツテ營利ニ目早イ土那人ノ風ニ
浸ルニタノモ無理モナイ事ナル、殊ニ土那人ハ他國人ニ
比シテ比較的ニ永住的デ、主トシテ高學ニ從事シテ居ん
故リ、數ニ十年トモ増加シ一八一八年ノ國勢調査時
代ノ在亞外人一五、一四九人ニシテハ六割七分九厘即チ
四四、二三七人ヲ數ヘ、マニラシヤヲ始メ比律賓、全嶋ニ
分布シテ升ルリタル、在住ノ華僑ハ現在約四万五千人
ト稱スルモ未ダ邊ヒハルコト、

上述ノ如クニ此等ノ土邦人ハ主トシテ高望ニ從テ
北嶋ノ高ニ於テ割取ル有ニ經濟上昂大其力
カヲ消シ小都市ニ移テ之ニ從テ高望ハ土邦人ノ手ヲ廻

せふに新なるてモノヲヤイトラフテ其を又ハナクはテ
 尚ホ其をナカニテ其嶋ノ土着民ト結婚せんモノ
 多ク、従フテ其ノ混血児ハ多數ニ上リテ其力
 範圍ハ益々大セシムルハ、人種上
 土着民ニ侮蔑セラルル甚カシク、屢々問題
 ラ爲テ起スルモノナリ、

第二章 北嶋華僑の歴史

明末清初、坤、福建、広東両省、民は地理上
自然、優越する感化を受け、南洋深達、取、華僑
ヲ具備、シテキタ故、梁道明、鄭昭（暹羅国王）
吳元盛等皆匹夫カラ身ヲ起、シテ海外ニ生ニ
蠻夷、面長トサツタモ、テ漢族、殖民、先配
者デケル。適々北嶋ハ香港ト相距、僅カニ
一葉帯水ヲ距、ウニニ過カズ、シテ、是等先配者
ノ風トニ渡航、シテ殖民、ナシタ、ハ明カデケルガ
是等ニツキ經、ツ、一紙中ヲ載セタ、ハ見、ヨ、ウ、イ、
キニ、教文部、カ、華僑、教、育、業、刊、ニ、載、セ、タ、

「北嶋華僑開創事業」是レヲ護ムヲ得テ其ニ初メテ
「大意ヲ知リテ之ヲ以テ得テ今ヲ歴史ノ
大畧ヲ述ベム」ト云フ。

米ヲ西班牙人が北緯宮ニ渡ラセカツタ以テ
丁度チ十四世紀ノ頃、福建人ヲ林旺ト云フモカ
北嶋ニ渡海シテ其地ニ上陸シ猛獸ヲ
逐ヒ土人ニ近ヅキ耕作上ノ智識ヲ土人ニ傳ヘ
タト云フ。此ノ折チ米ヲ遊牧ノ時代ニアツタ北嶋人
ハ此時代カラ漸クク農事時代ニ入リテ、
里力ノ智識モ亦チニ増加シ来リ。日田ノ諸種海
土即チ南方ヨリ北嶋ヘ移入サシタモ、
現在此北嶋常ニ家具、什器、其ノ名称ガ當時ノ大

那を説き有る事居んモカ江山ニテハニヨウテ繁
知し得うれし、此等ノ事大ヨウ見テ土耶人コウハ
フヲ刑禁奉味、此嶋ヲ歸リニヨウテ最モ預
カフテカアワメモ、テアムトテコウ、是ヨウレテ
土耶南ヤノ高ノ相離ルテ渡来スルヤウニナラ
者何ノ高に中ノ重要ナルハ棉花、鉄器、
左ビ紙料等モ、モリテアワメ、已ニ此時代土耶ハ
高書ニヨウテ精リテ強民政ニテヤ行ハントシタトモ
考案出まん、或歴史家ハ林旺ヲ東オノコビン
トニテモ言ツテ升ル、

西班牙ノ鉄鞍以後モ華僑ハ依然ノ通商ヲ
以テノレテ升ル、アスルニヤ一人モニカヤセハ

傳ふ所ニヨシバ、當時已ニ一都令ヲナス処ナリ土人
ナレバ高堂ハ出来ナカリキト云ハレテ升ル、

今ヲニエ支那人ハ此地カラ南東上ノ重要地ヲ
ナメ尚又ア帛嶺佐銀モ極メテ低價ナレセリテ
アタリナリシ。

丁度此嶋地帯ヲつかアルス、
the island、時代

ニ西班牙人ニ一大恐慌が起つた。こゝ土人、
李馬ヤガ、カマニシテ漢ヲ攻めシメテアツタ、

李馬ヤハ嘉担ニ旦ヲ智謀シ、人テアツテ木
造戦船數百艘ト數千人、壯勇トテ海
上ヲ横ノリ、ミテ升ルニテ、此ハ南方ニヒリウコン
トテ土人ハ、ミテ大驚、土人ハ、土人ハ、

多敷ニ住ンテサルトナリテ、何ハ此ヲ根據地トサシ
 ト欲シ、尚ホ鄭成功ガ台島ヲ占領シタト云フヲ
 知ラテノ怒ヲシテ志ヲ堅クシ、比嶋ノ攻取ヲ欲シタノテ
 アツス、何ハ此ニ艦隊ハ十隻、精兵三千ノヲ率
 ヒテ南行シ先ヅ呂宋嶋ノ東方ノ海峽ニ泊リテ
 一西班牙ノ官船ヲ捕サシメ、其ノ船長及船員ヲ殺シ
 ニテ、其ノ船ヲ見張船ガ海岸ヨリ海上ニ送リ、
 戦艦ノ集撃シ来ルヲ見テ驚キ、之ヲサセド、
 其ノ船ヲ見張船ニ急報シ、即チサセド、
 今度ハ三ノ、其ノヲサシメ、其ノ本部ヲ報
 知セシメ、一ナリ、守備ヲ堅クセシメ、其ノ
 戦艦カハ強大デアリテ、遂ニ其ノ五十隻トモナリ、